



## 命のバトンタッチ!「ムラサキ」の種取り

託麻野に 生ふる紫 匂ふごと 開けゆくまち  
帯山の 西の森かげ 歌ゆかし わがふるさとよ

これは、本校校歌「託麻野に」の一番の歌詞ですが、ムラサキは「わくわく通信 NO.3」

でも紹介した通り、本校で大切にされてきた校花です。ムラサキは、多年草で、初夏に白く小さな花をつけます。根の部分が紫色をしており、古代から紫色の染料として珍重され、万葉集では、その名が度々登場しています。校歌には「紫のやさしき姿」と3番の歌詞にも登場しています。

### 託麻野に 生ふる紫草 衣に染め いまだ着ずして 色に出にけり

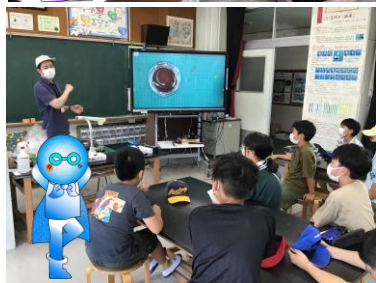
これは万葉集の一種で紫を題材に、女流歌人「<sup>かさの</sup>笠 <sup>いらつめ</sup>女郎」が万葉集の編纂者である<sup>おともの</sup>大伴 <sup>やかもち</sup>家持に贈った恋歌の一つだそうです。



現在では自生するムラサキはほとんど見られませんが、古くは熊本の地にムラサキの花畑が広がっていたのかもしれない。

そんな、歴史やロマンを感じるムラサキは、本校の緑化委員会の子供たちの手で守られています。担当の牛島先生の指導の下、ムラサキを子供たちが種から育て、花を咲かせ、そこから種を取って、また翌年咲かせるという気の遠くなるような作業を行っています。

そのような子供たちの頑張りと呼応するかのよう、熊大薬学部からの応援も受けています。ムラサキの根の紫根は古くから生薬として重宝されているので、薬学部でも栽培しているそうです。その知恵と経験を、本校のムラサキの栽培にも生かしてくれています。



熊大生から紫根エキスを紹介

緑化委員の子供たちの帯西イエローの「国や郷土を愛する」心によって、本校の校花は守られ、伝統をしっかりと守ってくれています。そして毎年花をつける頃に、帯西ブルーの「感動する心や畏敬の念をもつ」心を味わわせてくれるのです。

さらに緑化委員の子供たちは、帯西ブルーの「自然環境を大切に」の心で毎朝、ボランティアや緑化活動に取り組んでくれています。その姿に感謝します。